2020年はほぼ中断しました。身体も元気で気力も満々なのに、コロナのことだけでできないのは本当に悔しかった。でも感染が怖い。でも感染は避けることができる。政府が言っているように、感染防止対策をきっちり自分たちの納得のいくまでやって、勇気をもって始めてみよう！ということになり再開しました。でも残念なことに2021年5月まで、それ以降はまた中断します。今現在のコロナは本当に怖くて防止の自信がありません。自分達の努力がどこまで通用するか、自分たちで判断するしかないと思います。	コロナ禍の時代であるからこそ、人と人とのつながりが大切。だから、スケジュール通りに実施すべき。
感染症対策を守っていれば大丈夫だと思っています。	自主的な活動として個人の判断で参加することを理解していただく。
コロナを心配するか、サルコペニア、フレイルを心配するかといったらコロナは予防できるが、サルコペニアやフレイル予防は皆で一緒にするからできるもの。一人ではなかなか行動できないから継続してます。	当団体は少人数、多開催場所を目指しています。その理由は乳母車で通える距離、家族の状況をお互いにわかり合えている関係で安心感を共有できています。だから気遣えるのです。
人と人の支えは生命の綱になっている。長いこと休みのある時は電話でも良いから呼びかける、話し合う、ほっておいてはいけない。どんどん暗くなる。	自粛の開放感、人付き合い、ストレス解消
高齢者に社会参加（外出）の機会を与えていただけるだけでも喜んでいただけると思います。	年齢が90歳前後の方で家にいるとゴロゴロと寝てばかりだから週2回ぐらいなんでもやってくれとのこと。
感染対策をしておけば（活動時間を短くするなど）。中断はもったいない。コロナ禍1年半、今のところ問題なし。	緊急事態宣言中は実施しない（責任）、参加者同士の明るい笑顔で元気が出る（継続）
コロナ前も今もスタンスは変わらずにやってきました。多くの交流がときには滞ることもありますが、「コロナの恵み」ととらえて取組んでいます。無理せず楽しんで、健康第一にと声を掛け合い、活動できることに感謝している毎日です。	1人暮らしの人、家族と暮らしている方も、コーヒー・お茶をしながら談話に花咲く。みんなで合唱、オカリナやギターに合せて「春よこい・村の水車・北国の春・ここに幸あり」を合唱し若き日を思い起こした。出前講座で、嚥下障害・唾液腺マッサージ、お口の体操を聞き健康はありがたいと感謝、ある月は落語で悪質商法詐欺の話に。笑いながら日常油断しないお話を耳にする、葬儀場の講師から葬式の心得、家族葬などの今からの心構えと必要な準備の学び。
お休みせずに続ける。時間は短くする。人数の多い団体は回数を増やす。会場へ歩いて行けば、それだけでも運動になると思っています。	心配しながら行っています。会えば、良かった！と笑顔になれますが、コロナ感染が終息するのを願うばかりです。
必要としている方へ届くようにがんばりましょう。	コロナが落ち着くまでは無理をしないこと。豊橋市の長寿介護課と相談して進めると良い。居場所は高齢者の人生最後の集まりの場所で、楽しく話し合う風景は、嬉しく感じ、必要性を認める。
月に一度会うこと、出かけることを楽しみにしている利用者の心を大切にしたい。	

※一部要約等しています。

私達は、支え合い活動団体です。ネットワーク登録時に居場所と支え合いを区別しておくと良いのでは。	参加者は比較的元気な方です。これはこれで良いかも。独居者や少し健康に問題がある方もと思っています。
コロナ禍の中、昨年はほぼ中止しました。今年2回開催しましたが、5/9例会後、11月例会まで中止します。11月になればワクチンも行き渡るかなと。参加者は高齢の方が多いので、約束事はきちんと守ってくださいますが、やはり怖い。これまで毎回70人ほどの参加がありましたが、これほど参加者のことを気遣ったり、危険を避ける注意にあまり真剣ではなかった。コロナのおかげで会の運営についての反省点もいろいろ気づけたように思う。（会場運営で階段の使用無し、設備が整っていて設営が楽、呼びかけが広範囲にできる）	コロナ禍の中、特に高齢者は取り巻く状況が短期間で変化しています。サロンに参加していた人が圧迫骨折で動けなくなり、東京の親戚に移動していたり、転倒して骨折など80歳過ぎて乳がんが見つかり入院したりいろいろです。買い物や通院の足も家族が身近にいないと困っている様子です。公的な相談機関や助成制度はまだ不十分だと思います。きめ細やかな対応が必要だと思いながら、サロンでは限界もあり、悩みつつ過ごしています。
コロナワクチン接種終了までは、必要最低限の活動とすることが望ましい。後期高齢者の参加は避けるべきだと思う。じっと我慢の時期。「再開を待っている人がいる」ことを忘れずに、スタッフのミーティングは少人数で行っていることが大事だと思う。	活動を一時中断すると再開までにさらに大きな労力を要するので、感染症対策を工夫して、スケジュール通りに実施していくことが大切だと思う。
地域から出ない、外出はデイサービス、医者へと限定された行動の中で、少しでもできることを手助けしていけること等。まだ力不足の点があると思います。アドバイスをお願いします。	月に一度会う日を覚えておくこと。一カ月間の健康管理に本人が前向きに考えてくれていることが、送迎時の挨拶になっていることはほほえましいです。
余暇時間を楽しく過ごす（会話する等）ことを目的としているので、道具（ＣＤ等）の借用ができればありがたい。	利用者への連絡は文章で行う。安否確認をしながら手渡しで様子を見ることができる。マスクと水分持参は義務付ける。
精神的、身体的に健康でいつも生活できることを目標にしたいと思っています。他のグループの活動の見学をしたいです。紹介してください。	一人暮らしの方がどうしているのかわからないので、民生委員の方の協力が必要です。できれば安否確認の電話ができればいいのですが。
利用者、参加者は残念と思っていると思いますが、主催者側は日に日に無念さが募っていると思います。	老人会の行事、趣味の教室等行事が多くあり、現在は希望することはありません。
少しでも私たちの会に参考にできるものは、皆さんと共有したい。今のこのようなとき、今をいかに大切に生きるかということを落ち着いてから広げていきたいものだ。今の混沌とした時代、楽しく生きるべき。戦後の時代を上手に取り入れて、心豊かに生きていこう。	この施設をはじめて15年になります。高齢化社会に向かって始めた。実際を考えると地域の交流の場であったことに気づきました。未だ90歳以上になっても楽しんで遊んでいる人が数名います。ボランティアさんとともに元気いっぱい頑張ろうと思います。今後もよろしくお願いします。
どうやったら開催しても大丈夫なのか、話し合ったりしていますが、参加していただいている方々は、お茶とおしゃべりがまず一番です。運動や、脳トレをやっていただいたりしていますが、今後どのくらいで治ってくるのかそれ次第なのかと思います。	コロナ禍で皆さん自粛しているので、居場所に数人しか来なくなり、これからのサロンを続けられるか、とても不安に思っています。早く終息して家に閉じこもらないで、居場所に来ていただき、以前のように体操をしたり手作りしたり、笑いがあり困りごとの相談ができるコミュニティカフェでありたいと思っています。
再開するときの会議で助言がいただけたら嬉しいです。まだ時期は未定です。	コロナ禍でできることが減り、レクリエーションの行事に悩むが外出する機会だけでも提供していきたい。
マスクでの意見交換、盛り上がるが、額を寄せ合うことは1～2分と短い。食事会もするが、強いて言えば体の接触はない、現地見学5人移動（マスク必着）、換気実施	緊急事態宣言が出ているのに１か月に１回とは言え、活動していて良いものかと考えてしまいます。皆さんの希望で活動していますが、いつも頭には悩みがいっぱいです。
第4日曜日には何かを作ることを楽しみにして来られる方が多いので、手芸の簡単なものを作ることを教えてくださる方を紹介してほしい。居場所を始めてもう5～6年になります。良いアドバイスをください。前は会合があり意見交換の場があったが、最近は何の連絡もなく、皆様どうしておられるのでしょうか。近況が知りたいです。市の方も現状を教えてください。	まちづくり出前講座のパンフレットから次の課題を模索しその準備に向かい参考にしています。コロナ感染症の恐ろしさはテレビ、新聞、ラジオからの情報は知っているがもっと危機感をもった学びも必要です。映像、お話を聞いて家族、個人の意識を高めて自分も他人を守る日常生活が必須です。
一昨年、自治会・老人会・民生委員さんを中心に会を立ち上げ、月一回の活動を始めた。昨年春からコロナの関係で活動休止となっている。当初は町内の一人住まい高齢者の方々に声かけし、参加いただいていたが、次第に参加者が固定化してきた。毎回「茶話会+ちょっとした活動」をしていたが、参加者が楽しめる企画をするのが大変。（何かサポートいただけるものがあれば教えてほしい）	再開を望む声は参加者の人達から多々ありましたが、活動する上で、介護施設をご厚意により使用させていただいていましたので、施設長様と話し合い、コロナ禍の中、使用不可もやむなしとなった次第です。再開の目途は立ちませんし、活動場所の変更も難しい。なお、この一年間の内、数名は要支援の認定を受け、デイサービスに通っております。
健康講座等の講師の派遣	5～6月中は中止します。
H30.3月の市役所の出前講座を使わせていただき（居場所づくりの在り方）、15～20人ほど毎回参加者が足を運んでくれました。また、私一人でイベントを考えるのではなく、老人クラブの方々も積極的に講師をやっていただいたりして、みんな和気あいあいとして、H31.2月まで毎月１回実施できた。早く再開できる日を待っています。	一年間居場所は開けていませんが、電話やライン、個別訪問等で参加者と世話人の人間関係は、以前より濃くなったように思います。今はじっとがまんして再開に備えて力を蓄えたいと思います。
居場所の必要性を認める。より良い運営をするには、民生委員、老人会、自治会等の理解と協力が必要である。行政から力を入れてPRしてほしい。行政も現場訪問の中から、諸課題を理解し、共に取り組んでいくことができると良いと思う。体操のDVDは、60～70代向けにはとても良い。高齢者80代向けのものを考えてほしい。	当団体は市制100周年に愛大の学生が取り組んだ地域のまちづくり拠点事業を引き継ぐ形で現在に至りました。今日までの活動を長寿介護課の皆さまに支えていただいたことに感謝しています。必要（運営担当者の70代の私たち自身にとって）なことを楽しく地域で行えること、常に新たな出会いに恵まれ良い地域に学んでいます。

※一部要約等しています。